

国産材マーク普及へ、推進会発足

産業界が使いやすい仕組み構築

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC、三村明夫会長）森林再生事業化委員会（米田雅子委員長）が中心となり、8月8日に国産材マーク推進会が発足する。新たに制定する国産材マークにより、国産材の使用をPRし、日本の森林再生につなげていく狙いがある。

国産材マーク推進会には木材、木質建材などの関係団体による使用承諾部会（A会員）と住宅会社、建材メーカー（B会員）の2種を



国産材マーク
材率は100%、50%以上・50%超、60%以上、70%以上、80%以上、90%以上とする。その定義は集太、製材、合板、集成材、繊維板、LVL、防腐木材、複合フロー

カー、製材メーカー、製紙会社、大手セネコ、ン、商社、経済団体などによるマーク普及部会（B会員）の2種を設け、参加を呼びかけている。国産材率は100%、50%以上・50%超、60%以上、70%以上、80%以上、90%以上とする。その定義は集太、製材、合板、集成材、繊維板、LVL、防腐木材、複合フロー

JAPIC

リング、単層フローリング、プレカット材など。品目ごとに木材関連団体を事務局として指定し、その事務局がマーク使用を承諾する形で運用していく。

既にJAPICの森林再生事業化委員会の会員企業のなかで参加を表明しているところもあり、産業界が国産材を使用していくうえで、使いやすい制度として考えられているようだ。